

スイカの作り方

(家庭菜園向け)

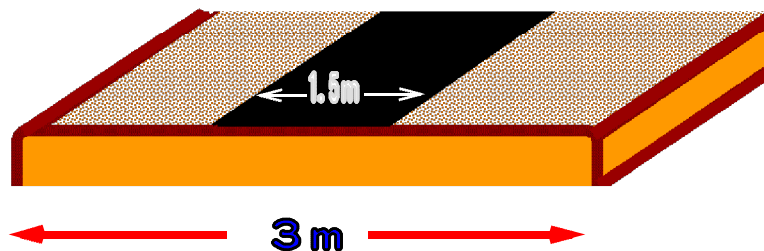
POINT!

スイカは日照り草と言われるほど日光が大好きです。可能な限り広く植えて密植栽培にならないように注意しましょう。また、連作を大変嫌います。連作の場合は接ぎ木苗を利用し、土作りを行い、連作障害を回避するようにしましょう。

畑の準備

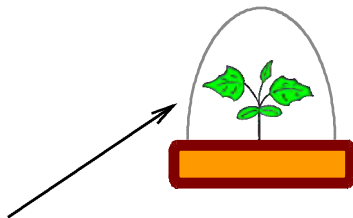
1㎡あたり完熟堆肥と腐葉土を約2kgずつ投入しすき込みます。肥料は畑により加減しますが一般的には化成肥料1㎡あたり100g(8-8-8の場合)程度、骨粉100g、pHの調整が必要な場合は苦土石灰などで酸度の調整をしておきます。

畝幅3m程度の畝を立てます。地温確保と防草を兼ねて、1.5mの黒マルチを中央に張っておきます。



定植

畝の中央に株間1.5m間隔で定植します。また、霜の心配がある場合はキャップやトンネルなどで防ぎましょう。

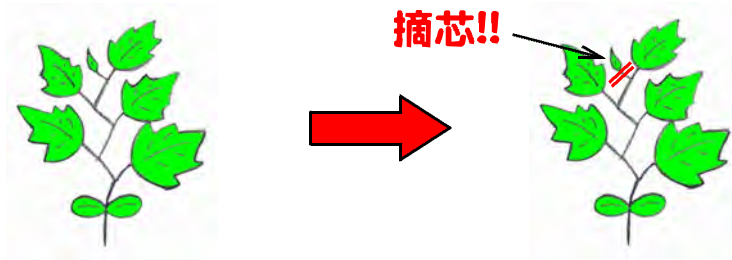


キャップは日焼けのしにくい
グラシンキャップ(紙製)がオススメ!!



摘芯

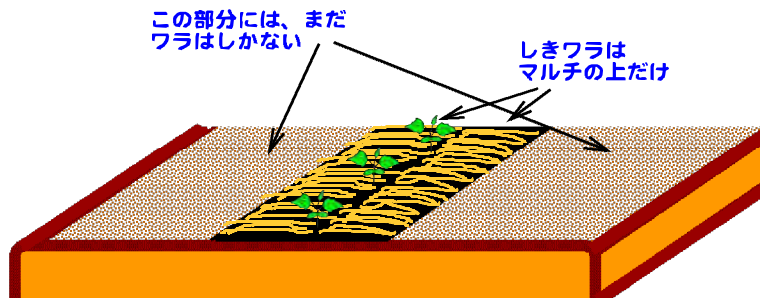
親ツルの本葉が5～6枚になった頃にツル先を摘芯します。



1回目の敷きワラ

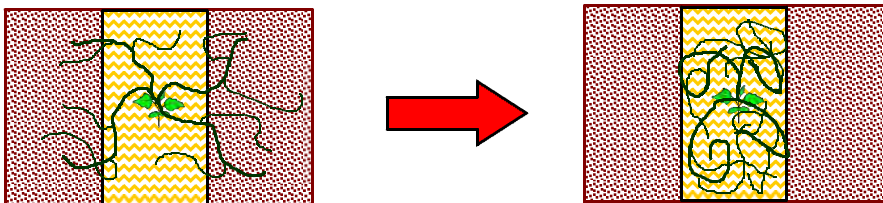
霜の心配がなくなりキャップやトンネルを除去出来るようになったら、マルチの上のみ敷きワラをします。ワラが手に入らない場合は「ワラいらす」等の資材を使うと便利です。

(注) このとき、畝全体に敷きワラをすると後にツルの管理が非常にやりにくくなります。



ツルの整理

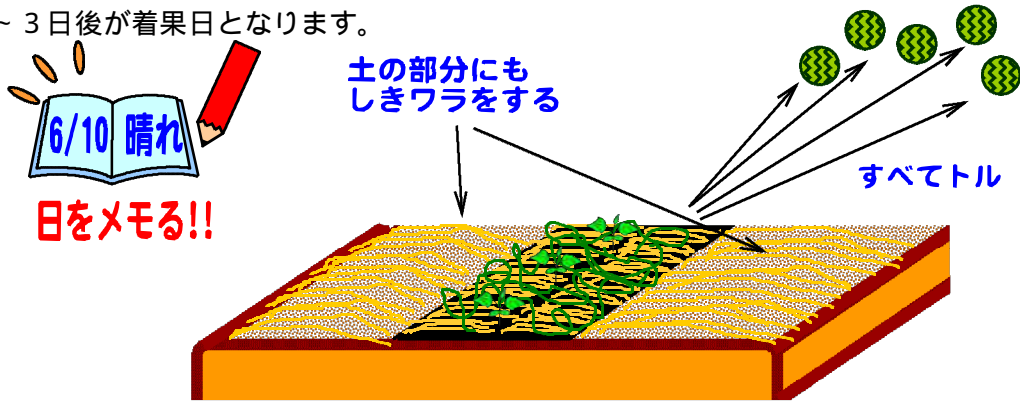
マルチからはみ出てきたツルは、そのつどマルチの上に折り返します。子ツル・孫ツル関係なく同様に行ってください。



真上から見た図

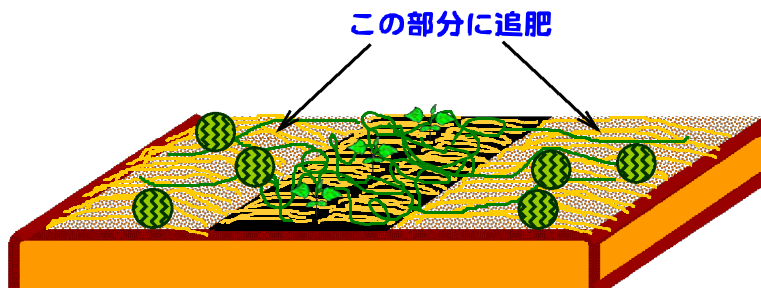
1回目の摘果・2回目の敷きワラ

定植後40～45日目頃にこれまでに着果している果実をすべて取り除きます。見落としの無いようにしっかりと探します。(ここで、もったいないと思って残してしまうと失敗します。)同時にマルチの無い部分にも敷きワラをします。この日は収穫の目安を付けるのに非常に大切な日ですので必ず覚えておきましょう！順調にいけばこの日の2～3日後が着果日となります。



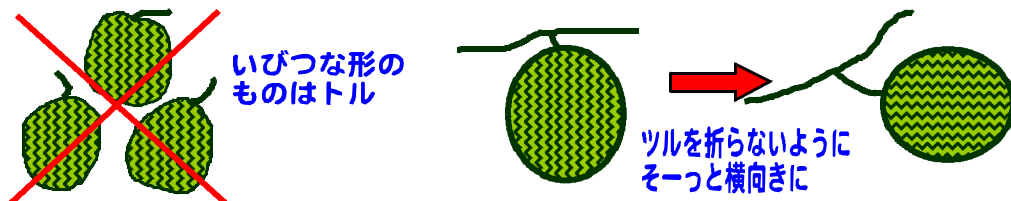
追肥

通常は2回目の敷きワラをしたときにワラ下に施します。草勢が強い場合は2回目の摘果のときに着果を確認してから施します。目安は1㎡あたり化成肥料20～30g程度。(小玉系は半分)追肥には化成肥料が良く、肥効の長い有機肥料を施すと裂果する場合があります。有機肥料は元肥に使いましょう。



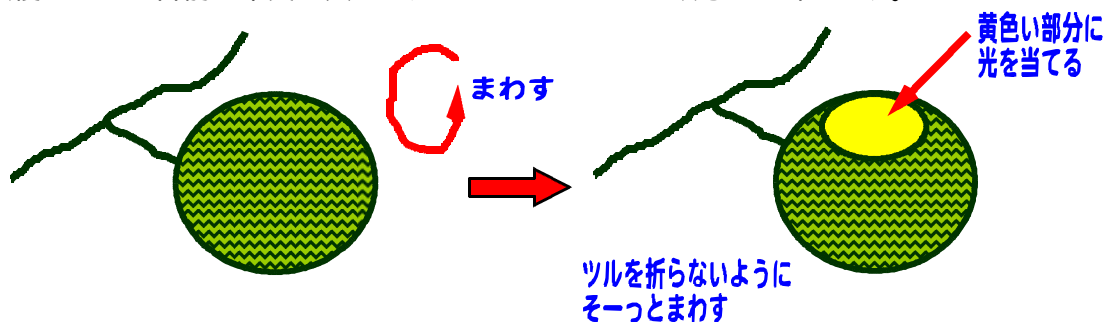
2回目の摘果

1回目の摘果から7～10日後に形の悪い果実を摘果します。残す果実の数は1株当たり大玉系で3玉、小玉系で6～7玉が標準です。子ヅル・孫ヅルに関係なく果形の良い果実を残して下さい。残した果実は横向きにしておくと裂果が少なくなります。



玉直し

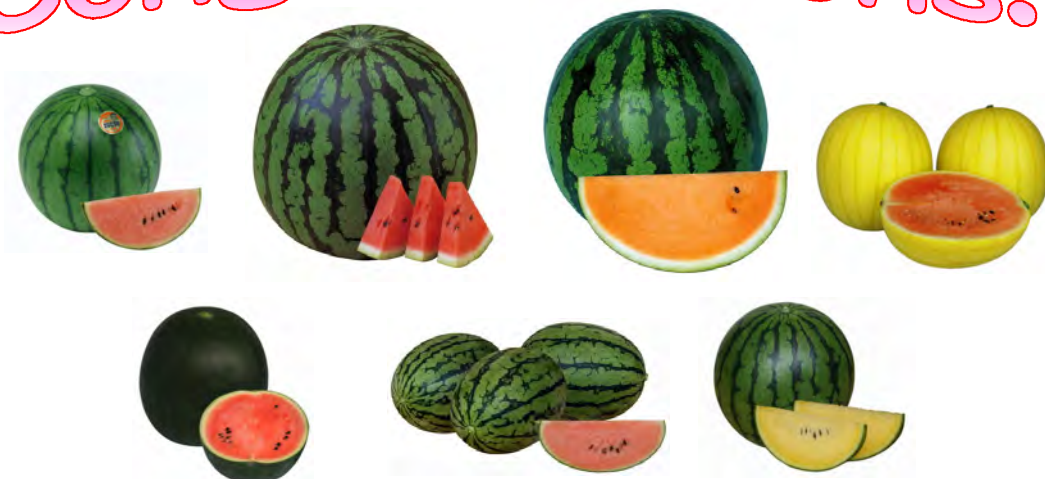
収穫の5～7日前に果実の天地を逆にしてみんべんなく光りを当てます。



収穫

開花後大玉系で約40～45日・小玉系で28～30日頃が収穫の目安です。

Congratulations!!



さあ、次はどの西瓜にトライする？